

平成25年度学校教育自己診断分析結果

生徒

1. 全般

○分析

「学校へ行くのは楽しい」(設問1)に対する肯定感は、実施するごとに上昇し63%となった。生徒が、学校生活を前向きにとらえる割合が上昇しているものとする。ただ、63%という値は決して高いとはいえない。

「学校の特色はよく出ている」(設問2)に対する肯定感は、41%に減少した。(前回47%)生徒は本校の特色について、十分自覚していないところがある。本校の特色として、普通科総合選択制を活かした教育課程やガイダンス機能、開校以来徹底している生徒指導等があり、生徒は一定それらを理解はしているが、特色としては自覚していないのかもしれない。

○課題

学習指導、特別活動、生徒会活動等、これまでの活動をしっかり精査して、生徒にとって魅力的なものになるよう改善を加えていく必要がある。

特色に関しては、広報活動が不十分である。色々な機会を利用して、内外ともにアピールしていく必要がある。自己診断アンケート項目の文言にも、特色をアピールするための工夫を加える余地がある。

2. 生徒指導・進路指導

○分析

「学校生活について先生の指導は納得できる」(設問3)は肯定感が46%(否定感35%)、「学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」(設問4)の肯定感は36%(否定感34%)で、肯定感は否定感を上回っているが、50%には届いていない。値は上昇してきているが、まだまだ改善の必要がある。

「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」(設問7)肯定感56%、「学校は進路についての情報をよく知らせしてくれる」(設問8)肯定感66%と進路に関する項目については、毎回上昇して、高い値になっている。個々の生徒に対して、きめ細かく指導する体制が充実してきたものとする。

○課題

生徒指導に関しては、指導の内容について常に吟味・改善していく必要がある。また、何でも生徒のいうことを聞くということではなく、高い肯定感にならなくても、生徒にとって必要な指導であることを、ねばり強く理解させていく必要がある。

3. 相談体制・人権教育

○分析

「いじめやもめごとなど、先生は色々な問題を見逃さずに対応してくれる」(設問5)は、肯定感が36%から32%に減少した。否定感(22%)は上回っているものの、不明が46%ある。「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」(設問6)も肯定感(40%)否定感(23%)不明(37%)で、肯定感、不明が拮抗している。相談室の開室日数を増やし、積極的に広報にも取り組んでいるが、あまり値に改善はみられない。これらの設問の状況におかれている生徒が少なく、「不明」の回答が多いのかもしれない。

「人権の大切さについて考える機会が多い」(設問9)は、肯定感(44%)が横ばいになった。取り組みは年々進んできていて、広報活動にも取り組んでいるが、なぜか肯定感が横ばいになった。

教員側が意図するところが十分生徒に伝わっていないのかもしれない。

○課題

地道に生徒の観察を行い、常に教職員に見守られている、という状況を作っていく必要がある。広報も工夫をしながら積極的に行い、取り組みをしっかりと伝えていくとともに、事後アンケートなどの検証をより精密に行い、次につなげていく必要がある。

4. HR活動・エリア選択・科目選択

○分析

「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に関わっている」（設問10）は肯定感41%（否定感34%）となっている。生徒会行事などは年々充実してきて、生徒の満足度も高いと捉えているが、一方で集団活動の苦手な生徒も増加し、クラス全体としての取り組みが難しくなっている現状がある。

「エリアの仕組みは、説明を聞いてよくわかる」（設問11）、「選択科目は、自分の興味・関心・適性・進路に応じて選びやすくなっている」（設問12）は、ともに肯定感が伸び、それぞれ57%（設問11）、59%（設問12）となっている。エリア・科目選択については、毎年前年度を参考にしながら改善していることが功を奏し、生徒にとってわかりやすいものに進化してきていると思われる。

○課題

ホームルーム活動もエリア・科目選択同様、前年度を参考に改善を加えているが、その効果が十分には表れていないようである。特効薬はないので、毎年生徒の様子にあわせた活動を、内容や方法を工夫して生徒を巻き込みながら実施し、改善・検証していく必要がある。

エリア・科目選択が高評価になっているのは、担任等による個別のきめ細かい指導も原因の一つである。今後も全体と個別の指導が、さらにうまくかみ合うよう改善しながら、指導していく。

保護者

1. 全般

○分析

「学校の特色はよく出ている」（設問3）等は、約50%ほどの肯定感となっている。一定の理解は得られていると考えるが、決して高いとはいえず、「学校の教育方針に共感できる」（設問5）については、肯定感が53%（昨年度57%）に減少した。学校からの情報提供が不十分で、保護者にとって判断しにくい、と感じたところから減少した可能性がある。

○課題

いろいろな場面を捉えて、さらに情報提供していく必要がある。また、提供が十分伝わるよう工夫していく必要がある。

2. 学校生活

○分析

「子どもは学校へ行くのが楽しいようだ」（設問1）は、肯定感が毎回上昇し80%になった。保護者から見たとき、生徒は一定の満足感を持ちながら学校生活を送っているようだ。「子どもは学校の授業がわかりやすいようだ」（設問2）も、肯定感が53%に上昇した。特別活動や生徒会活動、また、授業改善の取り組みなどが一定の成果となって、生徒を通じて保護者に伝わっているものと思われる。家庭連絡を密にする努力も評価されているものとする。

○課題

今後も、生徒の学校生活充実に向けた取り組みを進めるとともに、保護者に対してしっかり情報発信していきたい。

3. 相談体制・人権

○分析

「いじめやもめごとなど、先生は色々な問題を見逃さずに対応してくれる」（設問6）などは、肯定感（35%）は上昇しているが、不明（48%）が高い割合を占める。実際これらの内容については、保護者がそういう事態に直面しなければなかなか判断できるだけの情報が入らず、不明が高くなっているものと思われる。

○課題

これらの取り組みについて、さらに情報提供して学校の取り組みを理解していただく必要がある。また、保護者が回答しやすい（判断しやすい）ように、設問を工夫することも必要であろう。

4. 家庭連絡

○分析

「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」（設問9）等の肯定感は約60%である。学年室直通電話を設けたり、教職員の普段の活動が一定評価されたものとする。ただ、必要度に応じて家庭連絡の頻度は変わってくるが、否定感も25%弱あることも考えなければならない。

○課題

必要な家庭連絡等は、一定行われていると考える。ただ、一般的な連絡等が十分保護者に伝わっていない現実もある。それらを解決するため、メールサービスの登録者増加に向けた取組み等情報提供についてさらに工夫する必要がある。

5. 進路指導

○分析

「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」（設問14）等は、60%前後の肯定感がある。一方否定感は20%前後である。生徒もよく似た結果になっている。懇談等を通じて、生徒への指導内容が一定保護者にも伝わっているものとする。

○課題

進路指導の充実に向けて、色々な取り組みを計画・実施中である。これらの内容がしっかり保護者に伝わるよう、保護者説明会や保護者懇談等様々な場面を通じて工夫して情報提供に努めていきたい。

全体

創立10周年を迎え、順調に学校づくりができてきている。各項目の肯定感も開校当初から順調に上がってきている。しかし、全体の肯定感の平均は生徒48.4%、保護者55.5%で、決して高いとはいえない。また、不明の平均も生徒25.6%、保護者23.5%ある。これからのかわち野高校を考えると、肯定感の底上げ、不明の縮小が必要になってくる。それらに向けて、今後取り組みを進めていきたい。

また、学校教育自己診断の項目を工夫することで、特色のアピールに利用することも可能であったり、集計の方法を工夫することで新しい課題を見つけることも可能である。今後、学校教育自己診断のさらに積極的な活用についても考えていきたい。